

中国鉄道の旅

加藤 佳奈子

4月になりました。最近はことあるごとに日本の桜について聞かれます。日本人に限らず、外国人にとっても満開の桜の花というのは春を強く意識させるのかもしれませんが。この春日本を旅行したという中国人の知り合いは、開口一番「新宿の桜がきれいだった」と言っていました。私自身すっかり太原の生活に慣れましたが、この町には桜の木がないので、こういうときにやはり日本が懐かしくなります。

さて、話は変わり今回は中国の鉄道についてレポートをしてみようと思います。

中国では鉄道は“火車”と呼ばれています。これは石炭を燃料にして走行していたときの名残だそうです。この火車は主に長距離移動に利用します。種類は大きく分けて新幹線のような形状の高速鉄道と寝台車両もついた鈍行鉄道の2種類です。ちなみに北京から上海まで鉄道を利用した場合、高速鉄道の所要時間は5時間ですが、鈍行鉄道を利用した場合所要時間は15時間ほどかかります。値段は高速鉄道のほうが高く、片道8000円ほどで鈍行鉄道は片道2500円ほどです。どちらにも長所短所があるので、どの切符を購入するかはそのときの状況で使い分けます。

鉄道の使い分けを私個人の例で紹介してみます。ちょうどこの4月に火車を使って北京と上海にでかけたのですが、北京へは高速鉄道で、上海へは鈍行鉄道で行きました。太原から北京は比較的近く、高速鉄道で2時間半ほどです。値段は片道3000円。外観も内装も日本の新幹線とそっくりで、とても快適です。これが鈍行鉄道の場合だと所要時間は5時間～13時間（鉄道経路によって時間に差があります）、値段は700円～1000円くらいです。時間に余裕があれば鈍行も可能ですが、できれば乗車時間は短くしたかったので今回は高速鉄道を使いました。

次に上海ですが、実は太原から上海へは高速鉄道がありません。もちろん飛行機、という手もあるのですが、今回は節約のために鈍行鉄道で行くことにしました。値段は片道5000円。所要時間は13時間。これはだいたい中国国内を鉄道で移動するときの平均所要時間じゃないかと思います。日本人からするととんでもなく長い旅に思えますが、夜の8時に寝台車に乗れば、寝ながらにして翌日の午前9時には上海に到着です。また、長時間の旅は同じコンパートメントの人たちと世間話をするチャンスもあるのでいい中国語の勉強になります。なにより、窓の外を眺めながらゴトゴト鉄道に揺られて眠りに就く

とき、「旅をしている！」と強く感じます。日本ではあまり乗る機会のない寝台車を、時間があれば中国旅行の際に利用してみてもいいかもしれません。

ちなみに太原からチベットのラサに行く鉄道もあります。これは40時間近くかかります。中国は広いなと改めて感じます。このような旅も興味はありますがこれはちょっと遠すぎてまだ購入の決心が付きません。



駅のホームです。右の白い車両が高速鉄道。
両脇にある赤い車両が鈍行鉄道。



駅の待合室。ここは規模が小さいですが
大きい駅になると空いている椅子を探すのに一苦労です。



鉄道の車窓から。
地域により景色が違うので毎回見ていてあきません。